

平成二十二年十二月四日

通信教育部 大川宗之

『古今和歌集』

春歌上 三八〜三九番歌

【三八番歌】

梅の花を折りて人におくりける ともりの
君ならで誰にか見せん 梅の花 色をも香をも知る人
ぞ知る

〈校異〉

・りける…とてよめる（筋切・元永本）
れり（毘沙門堂注本）

・君ならで…きみなくて（前田家本清保二年）

・知る…みる（基俊本・六条家本・穂久邇文庫本清保元年）
みる（前田家本清保二年・家長本清永治二年）

〈語釈〉

・君…梅の花を送る相手（『新全集』）

「君」は『万葉集』では女性から男性に対して言う語であったが『古今集』以降は異性に対しても同性に対しても、相手に親しみを持って言う場合に使われるようになった。（『片桐全評釈』）

・か…係助詞（疑問・反語）

・む…助動詞「む」の連体形（推量・意志・假定・婉曲・
適当・当然・勧誘・反語）

・知る…「知る」には「自分の物として領有し精通するの意」があり、あなたこそ梅の花の素晴らしさを理解する人なのだ、という気持ちがある。（『新全集』）

伝本によつては「知る人ぞ見る」となつて
いるものがあるが、『源氏物語』紅梅巻において按察使大納言が勾宮に歌を贈る場面において「御前の花、心ばへありて見ゆめり。兵部卿宮、内裏におはすなり。一枝折りて参れ。知る人ぞ知る」とあり、当該歌を引き歌とするならば、「知る人ぞ知る」が本来の形であろう。

〈通釈〉

梅の花を折つて人に贈つた時の歌 友則
あなた以外に誰に見せようかこの梅の花を。色も香りもあなただけが知っているのだから

【三九番歌】

くらぶ山にてよめる づらゆき
梅の花にほふ春べは くらぶ山やみに越ゆれど 著くぞ
ありける

〈校異〉

・よめる…ナシ（筋切・元永本）
・やみに…くらく（私稿本）
・越ゆれど…こゆとも（亀山切）
・ぞありける…もあるかな（亀山切）さりける（伝公任本）

〈語釈〉

・くらぶ山…『古今集』初出、所在不明。説によれば、『五代集歌枕』『和歌初学抄』『名所歌枕』『八雲御抄』等は山城国としているが、そのなかでも鞍馬山、貴布祢山、東山、嵯峨野に近い所と諸説分かれる。『能因歌枕』は伊賀としている。「くらぶ山」は集中の一九五、二九五、五九〇番歌にも詠われており、「暗し・比ぶ」の縁語、掛詞となり、この歌では「闇」に掛かる。主な用例として、

- 秋霧のたちぬるときはくらぶやまおぼつかなくぞみえわたりける 『後撰集』貫之（秋中・二七一）
- 君かねにくらぶの山の時鳥いつれあたるこゑまさるらん 『後撰集』（恋四・八六八）
- 神無月しくるゝまゝにくらぶ山下てるはかり紅葉しにけり 『金葉和歌集』（冬・二七四）
- ことはりやおもひくらぶの山さくら匂ひまされる花をめつるも 『金葉和歌集』（恋歌下・四六三）
正慶二年大嘗会悠紀方稲春歌、近江国暗部里をよめる
- いにしへに今をくらぶの里人は世々にこえたるみしねをそつく 『玉葉和歌集』（賀・四六三）
- さ夜更てくらぶの山の時鳥行系もしらす鳴わたるなり 『続後拾遺和歌集』権中納言公雄（夏・一八七）
- 匂ふかのしるへならずは梅のはなくらぶの山に折まとはまし 『風雅和歌集』中務（春歌上・八二）
- くらぶ山木の下かけの岩つゝしたゝこれのみやひかり成らん

『新後拾遺和歌集』崇徳院（春歌下・一四一）
と他にもいくつかの用例があるが、梅、桜、月、紅葉、時鳥等の景物をともなつて使われる。
・著く…形容詞ク活用。「しるし」の連用形。①際だつ

ている。はつきりしている。②予想道理だ。その通りだ。の意で、ここでは①の意味。

〈通釈〉

くらぶ山にて詠んだ歌

貫之

梅の花が芳香と匂ってくる春は、暗いという「くらぶ山」を闇に越えてみても、どこに梅の花が咲いているのがはつきりと分かることだ。

【配列】

たいしらす

すしよほうし

③7 よそにのみあはれとそみしうめのはなあかぬいろかはおりでなりけり

うめのはなをおりてひとにおくりける

ともりのり

③8 きみならてたれにかみせむうめのはないろをもかをもしるひとそしる

くらぶやまにてよめる

つらゆき

③9 うめのはなひほふるへはくらぶやまやみにこゆれとしるくそありける

縁語

つきよにうめのはなをおりてひとのいひければおるとよめる

みつね

④0 つきよにはそれともみえすうめのはなかをたすねてそしるへかりける

この配列は、梅の香りから花へと、視覚的に梅が咲いていることを詠んでおり、現況の梅の経過が語られている。また、友則・貫之・躬恒と撰者が三人並んでいることも特徴だろう。

参考文献

『古今集校本』 笠間書院

『新日本古典文学大系 古今和歌集』 岩波書店

『日本古典文学全集 古今和歌集』 小学館

『古今和歌集全評釈』 講談社

『和歌大辞典』 明治書院

『新編国歌大観』 角川書店

『伝藤原公任本 古今和歌集』 旺文社